

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営

## (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

地域代表	校下区長会	会長 (1名)
	公民館	館長 (1名)
	民生児童委員	代表 (2名)
	学識経験者	代表 (2名)
	保育園	園長 (1名)
保護者代表	P T A	会長・副会長 (3名)
学校代表	教職員	校長・教頭・教務 (3名)

## ※地域コーディネーター (3名)

○地区地域づくり協議会会長 ○地区公民館長

○一般社団法人 若狭路活性化研究所代表

## (2) 協議会の内容

開催回数	2回
開催日	協議内容
6月 中旬	・協議会活動方針 ・本校の教育方針 ・教育計画の説明
2月 中旬	・学校評価の総括 ・次年度の学校経営方針 の検討

## (3) 協議会における成果と課題

地域での児童の様子や課題面について話し合われた。特に今年度は、地域での登下校時の児童の交通安全全面について話し合いが行われ、町に改善の要望をしていくこととなった。

## 2 地域と進める体験活動

## (1) 活動のねらい

梅栽培体験や漁業体験活動、また地域の魅力発見や発信活動を通して地域をよくするために必要なことを考え実践し、梅の里に誇りと愛着をもつ児童を育成する。

## (2) 活動の実際

## &lt;梅の生産・加工・広報活動&gt;

梅もぎ→梅干しづくり→梅干しを利用した地域の魅力発信体験を5,6年生の2年間を通して取り組んだ。特に、修学旅行を中心とした広報活動に向け、2年をかけて地元の特産についての理解を深めた。修学旅行でのPR活動では、ふるさとの特産品を紹介したパンフレットを作り、県外の人にふるさと「若狭町」をPRすることができた。



## (3) 地域コーディネーターの活動概要

西田地区の特産である梅栽培体験 (収穫→加工等) について、梅農家との連絡調整や体験充実に向けて担当教員との打ち合わせをリードしていただいた。

## (4) 特に工夫した事項

本年度は、県・町事業「地域と進める体験推進事業」の3年目であり、昨年の活動を発展させていけるようコーディネーターの方と連絡を密にして取り組んだ。

## (5) 成果と課題

今年度で県・町事業「地域と進める体験推進事業」が終了するが、引き続き地域での体験活動を続けていく中で、必要な費用をどう確保するかが課題である。

(様式3)